

久米島具志川方言の格標識

—有性生階層と各標識の分布—

仲原 穰 (琉球大学¹⁾)

1. はじめに

具志川方言とは、久米島町字具志川で話されている伝統的な言語である。具志川方言は北琉球語に属する沖縄語の言語変種である。具志川の人口は66世帯、99人(男55人、女44人)である(2021年2月28日現在)²。

久米島は沖縄本島南部の那覇から西へ約100kmに位置する。久米島には約30の集落があるが、島の西側、東側、南側で語彙や形態などによってさらに下位区分できる³。ただし、鳥島は、奄美諸島の硫黄島からの移住集落であり、久米島の他の集落とは大きく異なる特徴を持っている。

本報告は2018年9月から2020年2月までに得られた調査資料をデータとして用いる。言語調査協力者はMZ氏(1927生、男性)、MH氏(1931生、女性)、KS(1925生、男性)である。

コロナ禍により2020年度に予定していた調査は実施できなかった。また、調査の開始時期が事情により遅れていたこともあり、調査資料は十分とはいえない。そのため、具志川方言の各標識について網羅的に記述することは難しいが、現在までの言語資料に基づき、分かったことを報告する。

2. 具志川方言の音声的・形態音論的特徴

具志川方言は沖縄本島南部方言の特徴と類似した特徴を持つ。主なものだけ上げると、ダ行のラ行化、ラ行のダ行化がおこり自由異音化が進んでいるが、当該方言はダ行の方が優先的に使用される傾向がある。例えば文末助詞=*doo*は、=*roo*の例もみられるが用例数では=*doo*が圧倒的に多い。同じ久米島方言でも東部の真謝方言では=*roo*の例が多い⁴。

この他、破擦音が直音化する傾向がみられる。たとえば「チュ」は調音点がやや前より移動し、同じ言語調査協力者であっても[*tei*~*te:i*][*teu*~*tsu*]は単語や発話ごとにゆれる場合がある。また、[ʔ]は文頭や語頭などで弱く発音されるが、弁別的な機能がなく、音声的なものである。

また、格助詞の形態に関わるものとして、とりたて助詞=*ja*の形態音論的交替がある。他の沖縄語と同様に直前の母音によって、例えば与格助詞=*ni*/+/*ja*/→/=*nee*/となり、「太郎には」が/*taroo=nee*/となる⁵。しかし、久米島方言では/*ja*/が直前の母音と融合して長音化する他の沖縄中南部の諸方言とは異なり、/*ja*/が融合しない語形も併用される⁶。沖縄本島北部では/*ja*/が直前の音と融合しない特徴を持つ。ここから、沖縄語ながら、一部に沖縄本島北部地域と似た特徴を持つ久米島方言の特徴がうかがえる。

¹ 国立大学法人琉球大学 客員研究員。琉球大学、沖縄県立芸術大学、沖縄国際大学 他 非常勤講師。

² 久米島町調べ。久米島町のホームページ (<http://www.town.kumejima.okinawa.jp/>) [閲覧日 3/8]

³ 久米島方言の下位区分については仲原(2017)を参照されたい。

⁴ 真謝方言の助詞については仲原(2011)を参照されたい。

⁵ 本報告の表記は簡易的な音韻表記を用いる。例文の接語境界は「=」で示し、グロスで格を付した。

⁶ 木部[編](2017:147-157)の「文法例文集」には/*ja*/ (は) が形態音韻論的に融合したものと融合していないものが同じ例文のなかに併記された例文が多くみられる。

3. 具志川方言の格

具志川方言の格助詞には、=ga (が、の)、=nu (が、の)、=ni (に)、=nakan (に)、=saani (で)、=tu (と)、=uti (で)、=nzji (で)、=utooti (で)、=kati (へ、に)、=kara (から)、=madi (まで)、=jookan (より)がある。このうち、=ga や=nu のように同じ形式に複数の格が認められることがある。その場合は格を複数認めた。

なお、助詞が付かない名詞であっても文のなかの承接関係により機能を持つため、本報告ではこれらを「ハダカ」と称する。ハダカは格形式を持たない(Ø)。しかし、対格のように格形式を持たない「無標」がデフォルトとなるものもある。よって本発表では文における機能に着目し、該当すると思われる格をグロスで提示する⁷。以下の表1が、本発表で認めた久米島具志川方言の格標識の一覧である。それぞれに例文を付した。

表1. 具志川方言の格形式

格形式	機能	例文
Ø	対格	(1) <i>nuucjancji unu jaa koota=ga?</i> どうして その 家=ACC 買った=SFP 「 <u>どうしてその家を買ったの?</u> 」
	与格3 時間名詞	(2) <i>taroo=ja kinuu jaa=kati keetan.</i> 太郎=TOP 昨日=DAT3 家=ALL 帰った 「 <u>太郎は昨日に家へ帰った。</u> 」
	属格	(3) <i>anu inu=ja taa inu ja=ga?</i> あの 犬=TOP 誰 犬=GEN だ=SFP 「 <u>あの犬は誰の犬なの?</u> 」
=ga	主格1	(4) <i>attani miinee siinsjii=ga cukue muccji icjutan.</i> ふと 見ると 先生=NOM1 机=ACC 持って いった 「 <u>ふと見ると、先生が机を持っていった。</u> 」
	属格2	(5) <i>ari=ga naa sjiccjon=naa.</i> 彼=GEN2 名=ACC 知っている=SFP 「 <u>彼の名を知っているか?</u> 」
	与格2	(6) <i>iju kwaahi=ga icju=sa.</i> 魚=ACC 釣る=DAT2 行く=SFP 「 <u>魚を釣りに行くよ。</u> 」
=nu	属格1	(7) <i>jaa=nu naaka miinee, siinsjii=ga nintootan.</i> 家=GEN1 中=ACC 見ると 先生=NOM1 寝ていた 「 <u>家の中を見ると、先生が寝ていた。</u> 」
	主格2	(8) <i>jama=nu wii=ni nuu=nu aa=ga?</i> 山=GEN 上=LOC2 何=NOM2 有る=SFP 「 <u>山の上に何があるか?</u> 」

⁷ 本報告で付すグロスは、格標識を表すために付した簡易的なものであり、略号は末尾に掲載した。

=ni	与格	(9) <i>zjugjoo-cjuu=ni iccjin sjinsjii=ni nooto mirarin.</i> 授業中=DAT1 いつも 先生=DAT1 ノート=ACC 見られる 「 <u>授業中にいつも先生に</u> ノートを見られる。」
	所格 2	(10) <i>ama=ni aaru ohooku=nu nmu kamibusan.</i> あそこ=LOC2 ある たくさん=GEN1 芋=ACC 食べたい。 「あそこにあるたくさんのサツマイモを食べたい。」
=nakan	所格 5	(11) <i>daa=ja cjanu huuzjii jaa=nakan sjimeebusaa=ga?</i> お前=TOP どの ような 家=LOC5 住みたい=SFP。 「お前はどのような家に住みたいの？」
=saani	具格	(12) <i>taroo=ja hoocjaa=saani wiibi cjićjan</i> 太郎=TOP 包丁=INST 指=ACC 切った 「太郎は <u>包丁で</u> 指を切った。」
=tu	共格	(13) <i>taroo=ja uttu=tu asjidon.</i> 太郎=TOP 弟=COM 遊んでいる。 「太郎は <u>弟と</u> 遊んでいる。」
=uti	所格 1	(14) <i>taroo=ga icji=uti wiizjon.</i> 太郎=NOM1 池=LOC1 泳いでいる。 「太郎が <u>池で</u> 泳いでいる。」
=nzji	所格 3	(15) <i>naa cjukeen, ama=nzji miibusan=jaa.</i> もう 一度 あそこ=LOC3 見たい=SFP 「もう一度、 <u>あそこで</u> 見たいね。」
=utooti	所格 4	(16) <i>jaaninzju=nu ucji=utootee taru=ga icjiban kuusaa=ga?</i> 家族=GEN1 内=LOC4 誰=NOM1 1番 小さい=SFP 「家族の <u>中で</u> 誰が1番小さいか？」
=kati	方向格	(17) <i>taroo=ja naa tookjoo=kati nzjitan=doo.</i> 太郎=TOP もう 東京=ALL 行った=SFP 「太郎はもう <u>東京に</u> 行ったよ。」
=kara	奪格	(18) <i>taroo=ja jaa=kara huka=kati nzjitan.</i> 太郎=TOP 家=ABL 外=ALL 出た 「太郎は <u>家から</u> 外へ出た。」
=madi	限界格	(19) <i>taroo=ja jaa=madi accji keetan.</i> 太郎=TOP 家=LMT 歩いて 帰った 「太郎は <u>家まで</u> 歩いて帰った。」
=jookan	比較格	(20) <i>taroo=ja uttu=jookan taki takasan.</i> 太郎=TOP 弟=CMPR 背丈=NOM1 高い。 「太郎は <u>弟より</u> 背が高い。」

4. 主格標示と名詞修飾標示の有性生階層

琉球語においても名詞句の有性生階層が主格、名詞修飾の分布と関わりが明らかにされ

ている。重野・白田（2017：124）を参考に具志川方言の主格助詞の分布と属格助詞を含む名詞修飾標示の分布を示すと以下のようになる。

表2 具志川方言の有性生階層と主格助詞・名詞修飾標示の分布

	ヒト			モノ
	代名詞	固有名	親族呼称	その他
主格助詞	=ga	=ga	=ga	=ga
名詞修飾標示	特殊形／=ga／無標	無標		=nu

4.1 主格標示

主格標示には=ga（主格1）、=nu（主格2）の2つの形式がみられるが、用例数は=gaが圧倒的に多い。まず、主格1=gaの例文を代名詞、固有名、親族呼称、親族名称、その他（ヒト、モノ）の順に示す。

- (21) *anu kwaasji=ja wan=ga kadan=roo.* [代名詞（1人称）]
 あの 菓子=TOP 私=NOM1 食べた=SFP
 「あの菓子は私が食べたよ。」
- (22) *anu kwaasji=ja daa=ga kaadi=naa?* [代名詞（2人称）]
 あの 菓子=TOP お前=NOM1 食べた=SFP
 「あの菓子はお前が食べたのか？」
- (23) *ari=ga huusan.* [代名詞（モノ指示）]
 あれ=NOM1 欲しい
 「あれ（サツマイモ）が欲しい。」
- (24) *kunu sjigutu=ja ari=ga sun=doo.* [代名詞（ヒト疑問）]
 この 仕事=TOP 彼=NOM1 する=SFP
 「この仕事は彼がするよ。」
- (25) *unu naaka=uti nuu=ga icjiban huusa=ga?* [代名詞（モノ疑問）]
 その 中=LOC1 何=NOM1 一番 欲しい=SFP
 「この中でどれが一番欲しいの？」
- (26) *taroo=ga sjikai cji kwiinee masji jasjiga=jaa.* [固有名（ヒト）]
 太郎=NOM1 司会 して くれたら よい だけど=SFP
 「太郎が司会してくれたらよいのになあ。」
- (27) *otoo=ga toorinee deezji=roo.* [親族呼称]
 お父さん=NOM1 倒れたら 大変=SFP

「お父さんが倒れたら大変だよ。」

(28) *uttu=ga tooriinee wan=ga min=roo.* [親族名称]

弟=NOM1 倒れたら 私=NOM1 見る=SFP

「弟が倒れたら私が見るよ。」

(29) *icjin waratooru cju=ga sijjawasji najun.* [その他 (ヒト)]

いつも 笑っている 人=NOM1 幸せに なる

「いつも笑っている人が幸せになる。」

(30) *tokee=ga kakaton=doo.* [その他 (モノ)]

時計=NOM1 掛かっている=SFP

「時計が掛かっているよ。」

次に、=nu (主格助詞 2) の例文を示す。ただし、具志川方言の=nu の用例は現時点では以下の 2 例しか見つけ出せていない。例文 (32) の「足が」の例は、主格助詞 1 =ga の例も調査で得ているため、確認が必要な例でもある⁸。また、例文 (31) は言語調査協力者で最も年長であった KS 氏の例である。野原 (1982) や高橋 (2011) では具志川方言の近隣の上江洲方言や比屋定方言の主格 2 =nu の例文が示されている。ここから具志川方言でもかつては=nu の使用例があったが、現在では主格 1 =ga の使用域が主格 2 =nu を脅かしている可能性も考える必要があるだろう⁹。

(31) *jama=nu wii=ni nuu=nu aa=ga?* [代名詞 (疑問モノ)]

山=GEN 上=LOC2 何=NOM2 有る=SFP

「山の上に何があるか？」

(32) *hisa=nu heesaanu cjoo ureemasan.* [その他 (モノ)]

足=NOM2 早い 人は うらやましい

「足が早い人はうらやましい。」

4.2 名詞修飾標示

名詞修飾に用いられるのは、=nu (属格 1)、=ga (属格)、特殊な所有形になる。以下は特殊な所有形を持つ代名詞である¹⁰。

⁸ 調査では (33) の例文も得られた。 (33) *mukasjee wanten hisa=ga heesaatan.*
昔.TOP 私も 足=NOM1 早かった
「昔は私も足が速かった。」

⁹ 下地 (2016 : 174) は「与那国語」の主格標示が=nga だけを使用する点について「=nu の消失」と表現している。

¹⁰ 名詞に属格 1 =nu や属格 2 =ga を後続させると、例えば (38) は *wan=ga や *wan=nu、が予測される。しかし、実際は *waa kumi* 「私組」 (私の組) となっている。ここから、重野・白田 (2017) と同様に「特殊な所有形」と分析する。

(34) *wan kumi=ja sjinsjii=ga wakasaaru cju jatan.* [1人称代名詞・単数]
私 組=TOP 先生=NOM1 若い 人 だった
「私の組は先生が若い人だった。」

(35) *uri=ja jaa kwaasji den=doo.* [2人称代名詞・単数]
それ=TOP 君 菓子 だ=SFP
「それは君の菓子だよ。」

(36) *kuree taa kwaasji ja=gajaa.* [ヒト疑問代名詞 (誰)]
これは 誰の 菓子 なのだ=SFP
「これは誰のお菓子なのかな。」

ヒトを指す代名詞は、無標（助詞を介さずに並置すること）で名詞を修飾する。

(37) *wattaa kwaasji ja=kutu, daa=ja kamaran=doo.* [1人称代名詞・複数]
私たち お菓子 だ=CSL お前=TOP 食べられない=SFP
「私たちのお菓子だから、お前は食べられないよ。」

(38) *uree dattaa kwaasji ren=doo.* [2人称代名詞]
それは お前たち お菓子 だ=SFP
「それはお前たちのお菓子だよ。」

「二人」「二匹」「二つ」など、数が限定される場合、ヒトを指す名詞に限らず、モノ名詞でも属格助詞を介さず、数詞を並記することで名詞修飾標示になる¹¹。

なお、後続させる数詞は「2」に限定されないため「3人」「4つ」など、数を増やすこともできる。よって、これは「双数」ではなく、数を限定することでそれ以外を排他する表現と考えられる。

このとき、数詞の前の名詞がヒト代名詞やヒト名詞の場合は「複数形」になるが、モノ代名詞やモノ名詞の場合は(44)や(45)のように複数形にならない。これは、モノ名詞は複数形を持たないことが要因であると考えられる。

(39) *anu kwaasji=ja wattaa tai=saani kama=jaa.* [1人称代名詞・複数]
あの お菓子=TOP 私たち 二人=INST 食べよう=SFP
「あのお菓子は私たち二人で食べようね。」

(40) *unzjuncjaa tai=kati usagijabira.* [2人称代名詞尊敬・複数]

¹¹ 並記する名詞が数詞以外の場合は、代名詞の複数形であっても、後ほど5.2(57)で詳しく述べるように、属格=nuで連体修飾を標示することができる。

あなたたち 二人=ALL 差し上げましょう。

「あなたたち二人に差し上げましょう。」

- (41) *anu kwaasji=ja tarootaa tai=saani kataru=baanaa?* [固有名・複数]

あの お菓子=TOP 太郎たち 二人=INST 食べる=YNQ

「あのお菓子は太郎たち二人で食べるのか？」

- (42) *anu ikigancjaa tai=saani kataru=baanaa?* [その他 (ヒト名詞)・複数]

あの 男たち 二人=INST 食べた=YNQ

「あの男たち二人で食べたのか？」

- (43) *anu inuncjaa taacji=saani kataru=baanaa?* [その他 (動物名詞)・複数]

あの 犬たち 二匹=INST 食べた=YNQ

「あの犬たち二匹で食べたのか？」

- (44) *ari taacji kamibusan.* [代名詞 (モノ)]

あれ 二つ=ACC 食べたい

「あれ二つを食べたい。」

- (45) *anu nmu taacji kamibusan.* [その他 (モノ名詞)]

あの 芋 二つ 食べたい

「あの芋二つ 食べたい。」

次に、属格助詞 2 =ga の例を示す。=ga はモノ代名詞に用いられる。

- (46) *kurittaa taacji=ga huta=ja maa ja=gajaa?* [指示代名詞・単数]

これら 二つ=GEN2 蓋=TOP どこ なの=SFP

「これら二つの蓋はどこなのかな？」

最後に、属格助詞 1 =nu の例を示す。=nu は、一人称代名詞、ヒト代名詞、固有名、親族呼称など、多くの名詞の修飾に用いられる。

- (47) *wan=nu rusji=ga wan micjon.* [1人称・単数]

私=GEN1 友だち=NOM1 私=ACC 見ている

「私の友だちが私を見ている。」

- (48) *isa=nu jaa.* [その他 (ヒト名詞)]

医者=GEN1 家

「医者の家」

(49) *taroo=nu uttu.* [その他 (固有名)]

太郎=GEN1 弟

「太郎の弟」

(50) *kaara=ga sjima=nu nakazjin nagariton.* [その他 (自然)]

川=NOM1 島=GEN1 何=NOM2 有る=SFP

「川が島の真ん中を流れている」

5. 格助詞の機能

具志川方言の格助詞の機能について、例文をあげて記述する。

5.1 主格

主格は、ほとんどが主格助詞1の「ga」で標示される (主格助詞2の「nu」の使用例はほとんどない)。主格1=gaは動作・変化の主体、状態の対象に用いられる。以下に例文を示す。

(51) *taroo=ga cukue cukutan.* [動作の主体]

太郎=NOM1 机=ACC 作った .

「太郎が机を作った。」

(52) *unu sjigutu=ja wan=ga sun=roo.* [動作の主体]

その 仕事=TOP 私=NOM1 する=SFP .

「その仕事は私がするよ。」

(53) *taroo=ga=ru tooritootan=doo.* [変化の主体]

太郎=NOM1=FOC 倒れている=SFP

「太郎が倒れているよ。」

(54) *taroo=nee magisaaru utu=ga cjikarin.* [状態の対象]

太郎= 仕事=TOP 私=NOM1 する=SFP .

「太郎には大きな音が聞こえる。」

(55) *wanoo zjini=ga hoosan.* [状態 (感情) の対象]

私は お金=NOM1 欲しい .

「私はお金が欲しい。」

主格助詞=nuは、状態の対象に用いられる。以下に例文を示す。

(56) *hisa=nu heesaanu cjoo ureemasan.* [状態の対象]

足=NOM2 早い 人は うらやましい

「足が早い人はうらやましい。」

5.2 属格

属格は属格助詞 1 =nu と属格助詞 2 =ga で現れる。属格助詞 1 =nu は、所有や所属の関係、全体と部分の関係、同格の関係、限定（時間、場所、材料、種類、内容）に用いられる。以下に例文を示す。

(57) *taroo=ja wattaa=nu sara waten=roo.* [所有の関係]

太郎=TOP 私たち=GEN1 皿=ACC 割ってある=SFP

「太郎は私たちの皿を割ってある。」

(58) *taroo=nu sjasjin.* [所有の関係]

太郎=GEN1 写真

「太郎の写真」

(59) *jaa=nu ingwaa.* [所属の関係].

家=GEN1 犬

「(我が) 家の犬。」

(60) *maai=ga jaa=nu kubi=ni atatan.* [全体と部分]

鞆=NOM1 家=GEN1 壁=LOC2 当たった

「鞆が家の壁に当たった。」

(61) *wan=nu rusji=ga wan micjon.* [種類の限定]

私=GEN1 友だち=NOM1 私=ACC 見ている

「私の友だちが私を見ている。」

属格助詞 2 =ga は属格助詞 1 =nu より用例が限られ、所有の関係、全体と部分に用いられる。以下に例文を示す。

(62) *uri=ja wattaa tai=ga kwaasji den=doo-jaa.* [所有の関係]

それ=TOP 私たち 二人=GEM2 菓子 だよ=SFP

「それは私たち二人の菓子だよ。」

(63) *kuri=ga huta=ja maa ja=gajaa.* [全体と部分]

これ=GEN2 蓋=TOP どこ だ=SFP

「これ (瓶) の蓋はどこなのかな。」

5.3 対格

対格は無標であり、動作の対象に用いられる。

- (64) *taroo=ga asjibi-joogu kooctjan.* [動作の対象]
 太郎=NOM1 おもちゃ=ACC 私壊した
 「太郎がおもちゃを壊した。」
- (65) *nuucjancji unu jaa koota=ga?* [動作の対象]
 どうして その 家=ACC 買った=SFP
 「どうしてその家を買ったの？」
- (66) *unu kwaasji wattaa=kati kwimisooree.* [動作の対象]
 その 菓子=ACC 私たち=ALL ください
 「その菓子を私たちにください。」

5.4 与格

与格は=ni で標示され、受動文の動作主、使役文の被使役者、時間に用いられる。以下に例文を示す。

- (67) *zjugoo-cjuu=ni iccjin sjinsjii=ni nooto mirarin.* [受動文の動作主]
 授業中=DAT1 いつも 先生=DAT1 ノート=ACC 見られる [時間]
 「授業中にいつも先生にノートを見られる。」
- (68) *hanako=ni sjibai misijun.* [使役文の被使役者]
 花子=DAT1 芝居=ACC 見せる
 「花子に芝居を見せる。」
- (69) *taroo=ja sanzji=ni jaa=kati keetan.* [時間]
 太郎=TOP 3時=DAT1 家=LOC1 帰った
 「太郎は3時に家に帰った。」

5.5 具格

具格は=saani で標示され、道具、手段、動作主の構成員に用いられる。以下に例文を示す。

- (70) *taroo=ja hoocjaa=saani wiibi cjicjan* [道具]
 太郎=TOP 包丁=INST 指=ACC 切った
 「太郎は包丁で指を切った。」
- (71) *makaidoogu=ja nigari-mizji=saani araton.* [手段]
 食器=TOP 流水=INST 洗っている
 「食器は流水で洗っている。」

- (72) *anu kwaasji=ja wattaa=saani kama=jaa.* [動作主の構成員]
 あの 菓子=TOP 私たち=INST 食べよう=SFP
 「あの菓子は私たちで食べようね。」

5.6 共格

共格は=tu で示され、対称的關係、共同作業の相手に用いられる。以下に例文を示す。

- (73) *taroo=ja gakkoo=uti dusji=tu icjatan.* [対称的關係]
 太郎=TOP 学校=LOC1 友だち=COM 会った。
 「太郎は学校で友だちと会った。」

- (74) *taroo=ja uttu=tu asjidom.* [共同作業の相手]
 太郎=TOP 弟=COM 遊んでいる。
 「太郎は弟と遊んでいる。」

- (75) *qan=tu akiraga icjun=doo.* [共同作業の相手]
 私=COM アキラ=NOM1 行く=SFP
 「私とアキラが行くよ。」

5.7 所格

所格助詞 1 =uti、所格助詞 2 =ni、所格助詞 3 =nzji、序格助詞 4 =utooti で現れる。所格 1 =uti は事態の場所で用いられている。以下に用例を示す。

- (76) *taroo=ja micji=uti zjiko ukucjan.* [事態の場所]
 太郎=TOP 道=LOC1 事故=ACC 起こした
 「太郎は道で事故を起こした。」

- (77) *taroo=ga icji=uti wiizjon.* [事態の場所]
 太郎=NOM1 池=LOC1 泳いでいる
 「太郎は池で泳いでいる。」

所格助詞 2 =ni は存在の場所、移動の着点に用いられる。以下に用例を示す。

- (78) *hingitaru nusuru=ja unu jaa=nu cijkasa=ni uuru hazji=doo.* [存在の場所]
 逃げた 泥棒=NOM1 この 家=GEN1 近く=LOC2 いる はず=SFP
 「逃げた泥棒は、この家の近くにいるはずだよ。」

- (79) *jaa=ja jaa=ni maccjoori=joo.* [存在の場所]
 君=TOP 家=LOC2 待っているよ。

「君は家に待っているよ。」

(80) *maai=ga jaa=nu kubi=ni atatan.* [移動の着点]

鞠=NOM1 家=GEN1 壁=LOC2 当たった

「鞠が家の壁に当たった。」

所格助詞 3 =nzji は移動の着点で用いられている。以下の 1 例のみである。

(81) *naa cjukeen, ama=nnzji miibusan=jaa.* [移動の着点]

もう 一度 あそこ=LOC3 見たい=SFP

「もう一度、あそこで見たいね。」

所格助詞 4 =utooti は事態の場所で用いられている。以下の 1 例のみである。

(82) *jaaninzju=nu ucji=utootee taru=ga icjiban kuusaa=ga?* [事態の場所]

家族=GEN1 内=LOC4 誰=NOM1 1 番 小さい=SFP

「家族の中で誰が 1 番小さいか？」

5.8 方向格

方向格 1 =kati、方向格 2 =ga で現れる。方向格 1 -kati は移動の着点、移動の方向、変化の結果、受動文の動作主、方向格 2 =ga は移動の目的に用いられる。まず、方向格 1 =kati の例文を以下に示す。

(83) *kuma=kati kuu=ba.* [移動の着点]

ここ=ALL 来い=SFP

「ここに来い。」

(84) *taroo=ja kosjikake=kati icjan.* [移動の着点]

太郎=TOP 腰かけ=ALL 座った

「太郎は腰かけに座った。」

(85) *taroo=ja uttu=kati zjini ukutan.* [移動の方向]

太郎=TOP 弟=ALL お金=ACC 送った

「太郎は弟にお金を送った。」

(86) *taroo=ga nmu taacji=kati wakitan.* [変化の結果]

太郎=NOM1 芋=ACC 二つ=ALL 分けた

「太郎が芋を二つに分けた。」

(87) *taroo=ja uttu=kati nagurattan.* [受動文の動作主]

太郎=TOP 弟=ALL 殴られた
「太郎は弟に殴られた。」

方向格 2=*ga* は、行為の目的に用いられる。以下の 1 例のみである。

- (88) *iju kwaahi=ga icju=sa.* [行為の目的]
魚=ACC 釣る=DAT2 行く=SFP
「魚を釣りに行くよ。」

5.9 奪格

奪格は=*kara* で現れ、移動の起点、モノの起点に用いられる。以下に用例を示す。

- (89) *taroo=ja jaa=kara huka=kati nzjitan.* [移動の起点]
太郎=TOP 家=ABL 外=ALL 出た
「太郎は家から外へ出た。」

- (90) *taroo=ja uja=kara zjin itoon=doo.* [モノの起点]
太郎=TOP 親=ABL お金=ACC 貰っている=SFP
「太郎は親からお金を貰っているぞ。」

5.10 限界格

限界格は=*madi* で現れ、移動の終点に用いられる。以下の 1 例である。

- (91) *taroo=ja jaa=madi accji keetan.* [移動の終点]
太郎=TOP 家=LMT 歩いて 帰った
「太郎は家まで歩いて帰った。」

5.11 比較格

比較格は=*jookan* で現れ、比較の基準に用いられる。以下の 1 例である。

- (92) *taroo=ja uttu=jookan taki takasan.* [比較の基準]
太郎=TOP 弟=CMPR 背丈=NOM1 高い。
「太郎は弟より背が高い。」

6. 結び

本報告では、具志川方言の格標識の記述することを目的に、有性生階層、格標識の分布、各格標識の機能についてまとめた。5 で述べた具志川方言の格標識の機能を表 3 にまとめる。

表 3 具志川方言の各標識の機能

各標識	形式	機能
主格 1	=ga	動作・変化の主体、状態の対象
主格 2	=nu	状態の対象
属格 1	=nu	所有・所属の関係、全体と部分の関係、種類の限定
属格 2	=ga	所有の関係、全体と部分の関係
対格	Ø	動作の対象
与格	=ni	時間、受動文の動作主、使役文の被使役者、
具格	=saani	道具、手段、動作主の構成員
共格	=tu	対称的關係、共同作業の相手
所格 1	=uti	事態の場所
所格 2	=ni	存在の場所、移動の着点
所格 3	=nzji	移動の着点
所格 4	=utooti	事態の場所
方向格 1	=kati	移動の着点、移動の方向、変化の結果、受動文の動作主
方向格 2	=ga	移動の目的
奪格	=kara	移動の起点、モノの起点
限界格	=madi	移動の終点
比較格	=jookan	比較の基準

ここに示した格標識の機能は、「はじめに」で述べたように、限られた言語資料で分析したものである。今後、さらなる補足調査により補充すれば、機能が増えることが予測される。調査が再開できれば、もう少し詳細な記述ができるだろう。

また、具志川方言の「ハダカ」について、本報告では無標で示されたハダカに対格や属格を認め、一部与格とみられる例もあるなど、格が複数あることを提示した。しかし、ハダカについては、下地 (2019) で示された「ハダカ名詞句を基調 (デフォルト)」(p.9)とし、従来までの有標をデフォルトにした見方からの脱却し、=ga と=ja をパラディグマティックな関係として分析していくような視点での分析が必要であり、具志川方言でも=ga の「脱主題化仮説」が有効なのかなどについての分析が必要である。今後の課題にしたい。

参考文献

- かりまたしげひさ (2008) 「沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格=とりたて—ga 格、nu 格、ハダカ格、ja のとりたて形—」『日本東洋文化論集』14、pp.1-80。
- 木部暢子[編] (2017) 『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』国立国語研究所。
- 重野裕美・白田理人 (2016) 「北琉球奄美方言における有生性階層—奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に—」『広島経済大学研究論集』38(4)、pp. 111-133。
- 重野裕美・白田理人 (2017) 「北琉球奄美与路島与路方言の格標識」『琉球の方言』41、pp.119-164。
- 島袋幸子 (2015) 「今帰仁村謝名方言の名詞の格」『琉球諸語 記述文法 I』 pp.200-217。

- 下地理則 (2016) 「南琉球与那国語の格配列について」田窪行則、ジョン・ホイットマン、平子達也[編]『琉球諸語と古代日本語—日琉祖語の再建に向けて—』くろしお出版、pp.173-207。
- 下地理則 (2019) 「現代日本語共通語(口語)における主語の格標示と分裂自動詞性」武内四郎・下地理則[編]『日本語の格標示と分裂自動詞性』くろしお出版、pp.1-36。
- 高橋ユキ (2011) 「久米島方言の名詞」『琉球方言研究 創刊号 特集 久米島方言』(琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室) pp.145-168。
- 當山奈那 (2015) 「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』第4号、pp.47-59。
- 仲原 穰 (2001) 『琉球方言音韻・文法・語彙の研究：周辺諸方言との比較研究も含めて その2』(千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書) pp.51-68。
- 仲原 穰 (2017) 「久米島方言の下位区分」『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』 pp.7-23。
- 仲間恵子 (2015) 「恩納村名嘉真方言の名詞の格」『琉球諸語 記述文法 I』 pp.218-230。
- 野原三義 (1982) 「久米島方言の助詞」沖縄久米島調査委員会[編]『沖縄久米島』弘文堂、pp.747-767。
- ハイス・ファン・デル・ルベ (2017) 「沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形」『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』 pp.63-93。
- ハイス・ファン・デル・ルベ (2019) 「沖縄語惣慶方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』8, pp.45-56。

謝辞

本発表は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー：木部暢子)の研究成果である。

グロス略号 (抄)

グロス	英訳	意味	グロス	英訳	意味
ABL	ablative	奪格	FOC	focus	焦点
ACC	accusative	対格	GEN	genitive	属格
ALL	allative	方向格	INST	instrumental	具格
ADVRS	adversative	逆接	LMT	limitative	限界格
CMPR	comparative	比較格	LOC	locative	所格
COM	comitative	共格	NOM	nominative	主格
DAT	dative	与格	SFP	sentence final particle	文末助詞